

● 令和7年度 長崎市一般会計予算より注目のこども・子育て関連事業!

■ 病児・病後児保育費 (1億2,729万8千円)

予約システムの導入
上記予算のうち
815万1千円

病児を抱えた保護者の負担を軽減するため、8施設に増えた各病児・病後児保育施設に統一した予約システムを導入!
利用時に各施設の空き状況を同一システム画面(web)上で把握し予約申し込みできる環境を整備。



当事者の声に受けた高橋けいこの一般質問より政策実現!

■ ファミリー・サポート・センター運営費 (1,567万1千円)

運営体制の見直し

①窓口業務の一本化 ②まかせて会員増加へ向けた取組み
③会員の不安解消に向けた取組み(会員同士の交流の場づくり)

DX化への対応

事務手続きがオンラインで実施できるクラウドの管理システム導入

利用対象者の緩和

小学生までの範囲に限らず利用できるよう利用対象を緩和(会員同士の了解が前提)



当事者の声に受けた高橋けいこの一般質問より政策実現!

■ 民間保育所等こども誰でも通園事業費補助金 (2,240万円)

保護者の就労状況や理由を問わず、0~2歳の未就学児が保育施設を時間単位で利用できる「こども誰でも通園制度」。令和8年度の本格実施に向け、長崎市では先行事業として 令和7年6月開始予定で実施。

■ 5歳児健康診査費 (3,607万3千円)

令和7年6月(予定)より、長崎市に住所がありに満5歳になる幼児を対象に集団健康診査を実施。こどもの発達に関する相談・気づきの機会の確保、こどもの特性を早期に把握し、特性に合わせた適切な支援へ!

■ 子どもを守る取組推進費(324万4千円)

こどもにとって一番身近な「学習用端末」にチャット形式で相談できるアプリを導入!(上記予算のうち242万円)令和7年度はモデル校で検証→令和8年度以降全校導入を目指す。

● 高橋けいこの活動

議員として

- 各所でお話伺っています(ご相談承ります!お気軽にどうぞ!)
- SNSで発信、インスタライブ ●街頭演説 ●各視察、研修に参加
- 議員インターン生の受け入れ ●イベント開催

スキルを活かして

- アンガーマネジメント研修、親子イベント ●各種司会

"毎日投稿ショート動画"
1,000日超!

高橋けいこは毎日発信しています!
各種SNSはこちらから!



高橋けいこの近況

市議会議員としての任期の折り返しとなり、これまでの主な活動をまとめた「ながチャレNEWS vol.2」をお届けできることを嬉しく思います。この2年間で様々な方との繋がりが生まれ、多くの学びを得ながら活動させていただいていることに感謝しています。これからも身近な議員として、市民の皆さまの声に寄り添いながら活動してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします!

高橋けいこの市政報告

早いもので長崎市議会議員となり2年、任期の折り返しとなりました。

今号では、これまでの議員活動の中から主は取り組みをご報告いたします。

議員になり市政を前に進めることへの手応えを感じつつも、まだまだやるべきことが多々あります。

当事者の声に寄り添い、進めて参ります!



市政一般質問



市民相談



行政視察



政治スクール登壇



インターン生との勉強会



様々な活動を応援!



選挙ドキュメンタリー映画の上映サポート



インクルーシブ映画上映会サポート

長崎市政について、そして高橋けいこの取り組みについて「あなたの困難を見逃さない」ために、「わかりやすい発信」に努めて参ります!

Index

- 長崎市の病児・病後児保育施設の歩みと高橋けいこの働き

1. 背景と課題:なぜ病児・病後児保育の拡充が必要だったのか?
2. 高橋けいこの市議会一般質問
3. 拡充計画の実現
4. まとめ:高橋けいこの働き

- 令和7年度 長崎市一般会計予算より注目のこども・子育て関連事業!

発行者

ながさきチャレンジプロジェクト

ながさきチャレンジ プロジェクトQ

ncpkeiko@gmail.com



NAGASAKI Challenge! PROJECT

長崎市の病児・病後児保育施設の歩みと高橋けいこの働き

1

背景と課題

なぜ病児・病後児保育の拡充が必要だったのか？

長崎市では、共働き世帯の増加に伴い、「子どもが病気の時、仕事をどうするか？」という問題が深刻化。市内の病児・病後児保育施設において、以下の課題が浮き彫りになりました。



具体的な課題

1. 施設数の減少で受け入れが困難に

- ・令和5年(2023年)3月までは5施設が稼働していたが、1施設閉鎖により4施設に減少。
- ・これにより予約が取りづらい状況が加速。

2. 病後児保育が不足

- ・病気は回復したが まだ登園・登校が難しい子どもを預ける場所が少なく、保護者の負担が大きかった。

3. 予約システムが不便

- ・電話予約のみで、朝から何度もかけなければならない状況。

さらに、長崎市としてはこれまで「小児科に併設する病児・病後児保育施設」を推進してきましたが、新たな施設開設がなかなか進まなかったという背景もありました。

2

高橋けいこの市議会一般質問 令和5年(2023):新しい視点での提案



6月28日:一般質問

- 「施設減少への対応」と「今後の拡充計画」について市に質問。
- 「病児・病後児保育の不足により、仕事を休めない親が困っている」という現場の声を市に届ける。
- 市は「実施に向けて早急に取り組む」と回答。

12月12日:一般質問

- 「病児・病後児保育施設の新設」について具体的な計画を問う。
- さらに、「オンライン予約システムの導入」も提案。
- 市は本格的な拡充に向けて各所との協議・調整を開始。

大きな転換点となったのが、「保育園併設型の病児・病後児保育施設」を提案したことでした。

● これまでの「小児科併設型」ではなぜ増設が進まなかったのか？

- 長崎市はこれまで「小児科のある医療機関」に病児・病後児保育の設置を要請してきた。
- しかし、「人員確保の難しさ」や「診療との両立の難しさ」などの理由で設置意向のある小児科医院はなく新たな施設開設が進まなかった。
- その結果、「施設が増えないまま」という状況が続いていた。

● そこで高橋けいこが「保育園併設型」の導入を提案!

- 「小児科にこだわらず、保育園に病児・病後児保育を併設することで、施設を増やせるのでは?」と提案。
- 保育園側の協力を得ることで、病児保育がより柔軟に運営できる可能性を指摘。
- これにより、市の病児・病後児保育の拡充方針が大きく方向転換し、一気に動き出した。



3

拡充計画の実現

令和6年(2024) 2月	「令和6年度当初予算案」に病児・病後児保育の拡充が正式に盛り込まれる。 事業費: R5 8,687万4千円 → R6 1億4,171万4千円(うち、拡大分: 6,622万4千円) 施設数: 4施設 → 8施設へ倍増 現行の医療機関併設型に加え、保育施設併設型により実施施設数を拡大する。
5月	「愛宕ピノキオこども園」に 病児保育室「てって」を開設 → 5施設目。
令和7年(2025) 1月	「キンダーフィールド」に 病児保育室「ごろごろ」を開設 → 6施設目。
2月	「森の風保育園」に 病児保育「ねんねこ」を開設 → 7施設目。
3月	「さくら幼稚園・さくらんぼ保育園」に 病児保育「チェリー」を開設 → 8施設目。

長崎市の 病児・病後児保育施設は4カ所から8カ所へ倍増。
「小児科併設型」に加え「保育園併設型」も増設へと方針転換が実現した。

4

まとめ

高橋けいこの働き

- 議会の一般質問で病児・病後児保育の課題を指摘
- 「小児科併設型」では限界 → 「保育園併設型」の増設を提案し、事態を大きく前進させた!
- 令和6年度の予算案に「病児・病後児保育施設の拡充」を盛り込むことに成功
- 施設数を「4施設 → 8施設」へ倍増!!
子育て世帯の負担減へ!!
- オンライン予約システム導入を提案(令和7年度に実施)

多くの方々からご意見やお話を伺い、政策を実現することができました。ありがとうございます!引き続き、当事者の声に寄り添い、しっかりと見守ってまいります。

